

ロシア軍が MH17 撃墜についてウクライナと米に問う、更なる 10 か条

July 23, 2014

Russia Today (RT)



アンドレイ・カルトポロフ (左) とイゴール・マクーシェフ (右) 両露軍高官の、7月 21 日モスクワでの記者会見。

ロシアは軍のモニター・データを公表したが、これはキエフの空軍ジェット機が、墜落の少し前に MH17 機を追いかけしている様子を示すもので、この悲劇の状況について、ウクライナと米に対し、更に別のセットの質問を問いかけることになる。

二人の軍高官——露軍統合参謀長 **Andrey Kartoplov** 中将と空軍主席参謀 **Igor Makushev** 中将——が、先週木曜日、300 人近い死者を出した東部ウクライナでの惨事の原因究明について、キエフとワシントンに、いくつかの質問を提出した。

1. なぜ MH17 機は国際回廊を離れたのか？

「この飛行機は、ドネツクに着くまでは回廊の内部にとどまっていたましたが、そこでルートを逸れて北へ向かったことに注意してください」とカルトポロフは言った。

2. MH17 がルートを離れたのはナビゲーションの間違いか、それとも搭乗員が Dnepropetvsk のウクライナ航空管制官の指示に従っていたのか？

「回廊の左の境界線からの最大の逸脱は 14 km でした。その結果として、飛行機は回廊へ戻ろうとする動きをしていたことがわかります。にもかかわらず、マレーシアの搭乗員はその動きを完成するチャンスが得られませんでした。17:20 の時点で、飛行機はスピードを失い始め、17:23 に、それはロシアのレーダーから消えました。」

3. 自衛軍が飛行機をもっていないとすれば、なぜ防空装置の大集団が、この民兵団の占領地域に配備されていたのか？

「我々の知る限り、ウクライナ軍は、墜落のあった日、ドネツク近傍に Buk-M1 SAM システムを装備した 3 つか 4 つの防空大隊を配備していました。このシステムは、高度 22 km までの 35 km の範囲内の目標を撃つことができます。」



2014 年 7 月 14 日、ドネツク地区のドネツク市北 5 km にある Buk ミサイル防衛ユニット (RIA Novosti)

4. なぜキエフは、悲劇の直前に、民兵団の支配する地域の境界に、Buk ミサイル装置を配備したのか？

「我々は、ウクライナがこの国の南東部に、その防空ユニットを配備していた場所の衛星写真をもっています。最初の 3 枚の写真は 7 月 14 日に作られたものです。最初の写真は、ルガンスクの北西 8 km のところにある Buk 発射台を示しています。1 台の TELAR と、2 台の TEL がはっきり見えます。2 番目の写真は、ドネツクの北 5 km にあるレーダーを示して

います。2台の TAR が、他の装備や特殊構築物とともに写っています。3番目の写真は、ドネツク北の防空装置を示しています。1台の TELAR 発射台と、約 60 台の軍用とその補助車両、車両や他の構築物のためのテントがはっきり見えます。

「これは 7 月 17 日に作られた同じ領域の写真です。発射台がなくなっていることに注意してください。5 番目の写真は、同じ日の朝の、ドネツクの東 50 km、Shkhtyorsk の南 8 km の Zaroshchenskoye 村にある Buk ミサイルの砲台を示しています。6 番目の写真は、同じ地域の 7 月 18 日のものです。ご覧の通り、砲台がなくなっています。」



2014 年 7 月 17 日、ドネツク市北 5 km のドネツク地域から Buk ミサイル防衛ユニットがなくなっている。

5. 墜落のあった日、キエフは、Buk 装置の重要部品である Kupol-M1 9S18 レーダーの活動を強化した。なぜか？

「また 7 月 17 日には、ウクライナの Buk 装置の一部である Kupol-M1 9S18 レーダーの活動が、強化されました。このチャートでは、7 月 15 日には 7 つのレーダーが作動しており、7 月 16 日には 8 つのレーダーが、そして 7 月 17 日には、このあたりで 9 つのレーダーが作動しているのがわかります。それから、7 月 18 日から始まってレーダー活動は急激に落ち、今では 1 日に、2 つか 3 つのレーダーしか活動していません。この背後にある理由はまだ不明のままです。」

6. 一機の軍用機が、民間航空機のためのルート上で何をしていたのか？

「この時間に、通常のフライトを行っていた民間機が 3 機ありました。17:17 には、コペン

ハーゲンからシンガポールへ1機、17:24には、パリから台北へ1機、そしてこのアムステルダムからクアラルンプールへの便がありました。」

「また、ロシアのモニター・システムは、ウクライナ空軍のジェット機、多分 Su-25 が、マレーシアのボーイング機に向かって上昇し接近しているのを記録しています。」

「Su-25機は、マレーシアの飛行機から3~5kmのところにはいました。Su-25は短時間なら高度1万メートルまで昇ることができます。その標準的な武器としては、R60空対空ミサイルで、これは目標を12kmの距離からロックして撃ち落とすことができ、5kmの距離から目標を狙えば外れることはありません。」



7. なぜ軍用ジェット機は、旅客機にそれほど接近して飛んでいたのか？

「17:21'35の時点で、ボーイングの速度が時速200キロにまで落ちたとき、ある飛行物体を発見したことを表示する新しいマークが、ボーイングの破壊現場に現れます。この新しい飛行物体はUst-DonetskとButurinskayaのレーダー・ステーションによって、4分間にわたって連続して確認されました。一人の航空管制官がこの新しい飛行物体の正体を訊ねましたが、そのパラメータ上には何も読み取ることができませんでした——おそらく、この航空機は軍用機の顕著な特徴である、2つ目の監視レーダー応答機を備えていなかったことによると思われます」と、マクーシェフは言った。

「この新しい航空機は、それが上昇し始めたとき、再び見えるようになりました。この飛行

物体の座標がさらに変わったことから、それがボーイング 777 の墜落現場の上を舞い、状況をモニターしていることがわかりました。

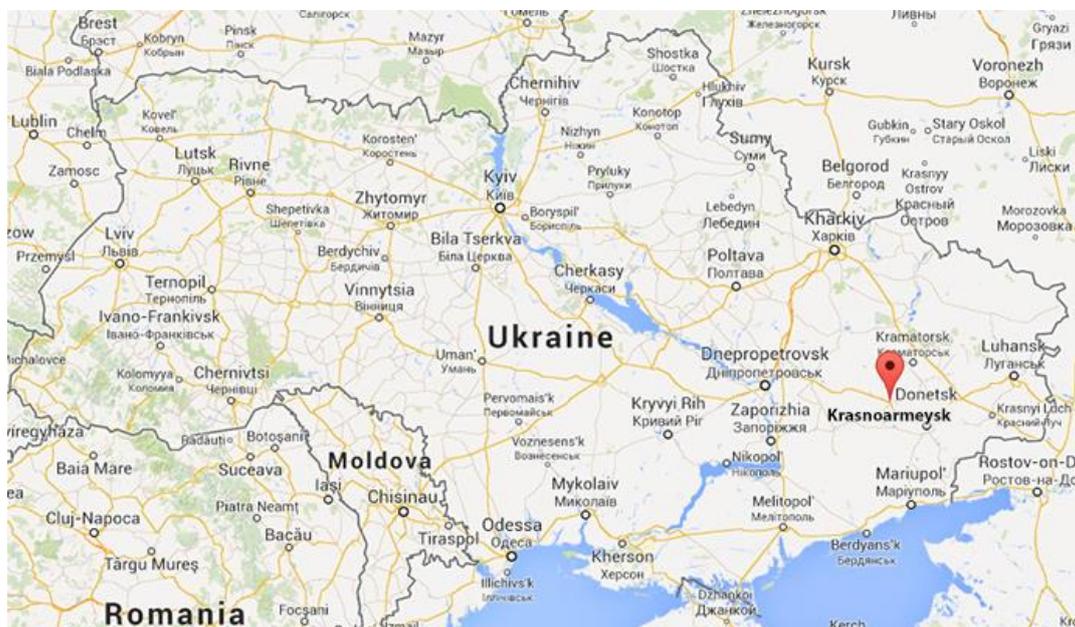
「ウクライナの高官たちは、これまで、その日の墜落現場あたりにウクライナ軍機はいなかったと言っていました。これはすぐわかる通り、本当ではありません。」

8. 西側メディアに行きあたり、Buk 装置がウクライナからロシアへ引き上げる場面ということになっているビデオに映っている発射台は、どこから来たのか？ このビデオはキエフに支配されている領域で作られたのだから、この発射台はどこへ移送されていたのか？

「ここで私たちが提供した情報は、さまざまな高度技術システムによる、客観的で信頼できるデータに基づくものであって、ロシアに対する根拠のない非難とは全く違うものだ」と、私は申し上げたい」と、カルトポロフは言った。

(スタジオと現場を結ぶロシア語放送の動画——省略)

「例えばメディアは、Buk 装置が、ウクライナからロシアへ引き上げる場面ということになっているビデオを、ばらまいています。これは明らかに作り事です。このビデオは Krasnoarmeysk の町で作られたもので、それは背景に見える 34 Dnepropetrovsk Street の自動車販売業者の看板から明らかです。クラスノアルメイスクは、5月11日以来、ウクライナ軍に支配されています。」



9. それは今どこにあるのか？ なぜ、いくつかのミサイルが発射台から消えているのか？ 最後にそこからミサイルが発射されたのは、いつなのか？



ウクライナ内務省の説明として掲載されたビデオの一場面。3基あったうちの2基を載せて、ウクライナからロシアへ移動しているとされる Buk 装置が写っている。

10. なぜ米高官筋は、MH17 が、民兵団の発射したミサイルによって撃ち落とされたという主張を支持する証拠を、公表しないのか？

「米高官たちは、マレーシア旅客機が、民兵団の発射したミサイルによって撃ち落とされたことを証明する衛星写真をもっていると主張しています。しかしこれまで誰もその写真を見た者がいません。我々の知る限り、確かにアメリカの衛星が、モスクワ時間で7月17日の17:06から17:21にかけて、南東ウクライナの上空を飛んでいました。

「この衛星は、さまざまな射程のミサイルの発射を追跡しモニターするための、実験的システムの一部です。もし我々のアメリカの同僚が、この衛星からの映像を持っているのなら、彼らは、国際社会がそれを詳しく調べられるように公表すべきです。これは偶然の一致かもしれないが、アメリカの衛星は、マレーシアの旅客機が墜落すると同時に、ウクライナ上空を飛んでいました。」



2014年7月17日の、ドネツク市から南へ50キロ、Shakhtyorskから南へ8キロのZaroschinskoeのBuk ミサイル防衛ユニット。

ロシアがこの飛行機の墜落について問題を提起するのは、これが初めてではない。ロシアがこの攻撃の背後にいるという完全な証拠をもっているとキエフが主張してから、その後どんな説明もない——今のところ、テープを公表した以外は。

アメリカは自衛軍に罪をかぶせたが、まだどんな情報資料も公表することを拒んでいる。月曜日に、国務省代理スポークスマンの Marie Harf は、ロシアの声明を「プロパガンダであり誤った情報だ」と評したが、記者団が、ワシントンは彼らの情報と衛星データを公表するつもりがあるのかと聞くと、ハーフは「ひょっとしたら」(maybe) と答えたただだった。これまでのところアメリカは、その声明の根拠を、社会メディアと“常識”から得ている。